中村忠教授退職記念号発刊に寄せて

経済学部長　矢　野　修　一

毎年、この季節は、定年退職を迎えられる先生をお送りしています。早いもので私が本学に奉職して18年。この間、お世話になった先輩方を、１人、また１人とお送りしてまいりました。寂しいかぎりです。昨年は一挙に６人もの先生が専任教員としてのお務めを無事終えられましたが、今年も中村忠先生が定年をお迎えになりました。本学における研究・教育の発展に多大な貢献をなされた中村先生に対し、高崎経済大学経済学部を代表いたしまして、ここに厚く御礼申し上げます。

先生のご専門は民法ということで、私はまったくの門外漢でありますが、もともとは、「わが国の資本主義の発展過程における法の役割と機能」を科学的かつ論理的に考察することが研究の出発点だったとお聞きしております。経済学批判序説におけるマルクスの命題に触発され、日本の近代化における土地所有権の構造変化を綿密に研究してこられたそうです。先生は、現在も「入会権の歴史的分析」をテーマとして研究を続けておられますが、これは、ぶれることなき、上記のような問題意識から必然的に導かれるものであったと拝察いたします。その成果は、入会林野研究の専門家からも注目され、先駆的業績としてたびたび引用されているようです。おそらくは、ご退職後も、精力的に研究を積み重ねられることでしょう。ますますのご健筆を祈念申し上げます。

研究面の貢献もさることながら、先生は教育面でも本学に大きな足跡を残されました。ゼミ活動などを通じ、多くの学生を実社会に送り出されただけではなく、専門的研究分野でも、有為な逸材を育てられました。大都会にある大学の法学部ではない、地方公立大学の経済学部から、これだけ多くの法学研究者を世に送り出した功績は、はかりしれません。単に厳しく指導するだけでは、いくら優秀な学生でも伸びていかないでしょう。懐の深い先生が、時には叱咤し、時には優しく見守りながら、伸び盛りではあるけれど、同時に傷つきやすい若者をうまく育まれたのだと思います。

中村先生には、来年度も特任教授として、いくつかの講義・ゼミを担当していただきます。専任教員としては定年退職を迎えられましたが、今しばらく、本学にお力をお貸しください。

ただひとつだけ、私が懸念いたしますのは、先生のご健康です。けっしてご無理はなされず、くれぐれもご自愛くださいますよう、お願い申し上げまして、退職記念号のご挨拶とさせていただきます。